



国際花と緑の博覧会開催

30周年

保存版

覚えてますか?

特別協力/公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

1990年(平成2年)に国際花と緑の博覧会が開催されました

今から30年前の1990年(平成2年)4月1日~9月30日の183日間、鶴見緑地において国際博覧会条約に基づく博覧会(※1)『国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」)』が開催され、海外からは82カ国、55国際機関、国内からは全国の都道府県、政令指定都市などの多くの団体が参加協力し、約2,312万人が訪れ賑わいました。

当初、1989年(平成元年)に迎える大阪市の市制100周年記念事業として構想し準備を進めていた博覧会でしたが、多くの人々の支援により、開催年を翌年(※2)に移し国際博覧会条約に基づく国際博覧会へと発展しました。

花の万博は、地球規模での温暖化や森林の減少、酸性雨など環境問題に関心が高まりつつある中、「自然と人間の共生」をテーマに開催された国際博覧会であると同時に、東洋で初めての大国際園芸博覧会でした。また、日本では4回目、大阪では1970年(昭和45年)に開催された太陽の塔でおなじみの「大阪万博」に続く2回目の国際博覧会でした。

会場は、中央に「いのちの海(大池)」を配置し、その南に「野原のエリア」、東から北に「山のエリア」、西に「街のエリア」の3つの区域を巡らした周回型の構成で、花と緑を主役とし、その中の都市のあり方を考える、花・緑・都市を調和させた会場づくりに工夫が凝らされていました。

※1 國際博覧会を開催するには、博覧会国際事務局(BIE)の承認が必要条件

※2 同一国での特別博覧会の開催間隔として5年間が必要であり、日本では1985年(昭和60年)に国際科学技術博覧会を開催するため



いのちの海(アレフ)



花の谷

名称 国際花と緑の博覧会 **テーマ** 自然と人間との共生

略称 花の万博、EXPO'90 **会場** 鶴見緑地

ねらい 花と緑と人間生活のかかわりをとらえ、
21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす

博覧会の性格 国際博覧会条約に基づく特別博覧会で、
東洋で初めて開催された大國際園芸博覧会

開催期間 1990年(平成2年)4月1日~9月30日(183日間)

開催時間 9時30分~22時(4月1日~4月26日) /
9時~22時30分(4月27日~9月30日)

外国出展 82カ国、55国際機関

国内出展 政府出展1件、展示館出展31件、屋内展示場出展158件、
屋外展示場出展135件

会場面積 約140ha(駐車場・関連施設等を含む)

入場者総数 23,126,934人 出典「国際花と緑の博覧会と大阪市」

日本での国際博覧会

1970年 日本国博覧会(略称／大阪万博)

1975年 沖縄国際海洋博覧会(略称等／沖縄海洋博)

1985年 国際科学技術博覧会(略称等／筑波科学博、つくば万博)

1990年 国際花と緑の博覧会(略称等／花の万博、花博)

2005年 2005年日本国際博覧会(略称等／愛知万博、愛・地球博)

2025年 2025年日本国際博覧会(略称／大阪・関西万博)

マスコットキャラクター「花ずきんちゃん」

明るく親しみやすいデザインを一般公募。全国から9,603点の応募作品が集まり、3歳から90歳まで幅広い年齢層から多彩なデザインが寄せられました。漫画家の手塚治虫氏が委員長を務めるマスコット・デザイン審査会において、福岡市在住のイラストレーターの作品が選定。森の中を飛ぶ花の妖精をイメージして描かれたもので、手塚委員長が補作し、花の万博のマスコットとなりました。

デザイン決定後、愛称も一般公募を行い海外からの応募を含む29,267通の応募があり、マスコット・ネーミング審査会において「花ずきんちゃん」※に決定しました。

※「花ずきんちゃん」の愛称を応募した5人の中から抽選で兵庫県在住の方が最優秀賞に選ばれた

